

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	22000015	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	AIDによるtopoisomerase 1を介したゲノム不安定性誘導のメカニズム		
研究代表者名 (所属・職)	本庶 佑 (京都大学・大学院医学研究科・客員教授)		

【平成25年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(評価意見)

研究代表者は2000年にAIDを発見し、AIDが体細胞突然変異とクラススイッチに必須の酵素であることを明らかにし、以後、世界をリードする成果を継続して上げてきた。本研究では当初の研究計画に沿って順調に成果を上げており、AIDの構造と機能、AIDによるDNAの切断機構の両面で優れた成果を上げている点は高く評価できる。AIDによるtopoisomerase 1 mRNA翻訳抑制にmicroRNAが関与するなど、興味深い研究成果が得られた。マスコミにも研究成果が取り上げられており、社会からの注目度も大きく、目標に向けて、今後も順調に研究が進行して行くと予想される。

一方で、ゲノム不安定化のメカニズムに関する研究成果が、免疫学領域のみならず老化や神経変性等の関連領域にも強いインパクトを与えられれば、今後、新たな展開が迎えられる可能性がある。

なお、研究組織は有機的に機能していると判断されるが、この領域では研究代表者の業績が突出している感がある。今後、本研究の中で代表者に続く優れた研究者が育成されることについても期待したい。